

令和 4 年度（第 1 期試験）

東北大学大学院教育学研究科博士課程

（前期課程・一般選抜）

入学試験問題 外国語科目（日本語）

注 意

- 1 試験時間は 90 分。
- 2 問題紙は 6 枚（表紙を除く）、解答紙は 2 枚。
- 3 設問Ⅰ、設問Ⅱの解答はそれぞれ別の用紙に記入すること。
- 4 辞書の持ち込み不可とする。

設問Ⅰ 次の文章は、『文系と理系はなぜ分かれたのか』という本からとったものである。
この文章を読み、以下の問いに答えなさい。

ここに当該文献の

p.156, L.2 から p.161, L11 まで
の部分が掲載されています。

また、以下の部分に傍線が加えられています。

傍線部一:p.156, L.3「顕著」

傍線部二:p.157, L.8「担う」

傍線部三:p.158, L.2「戸惑ったり」

傍線部四:p.159, L.10「偏り」

傍線部五:p.161, L.5-6「疑問視」

傍線部①:p.157, L.15「教室も」...「なのでしょう。」

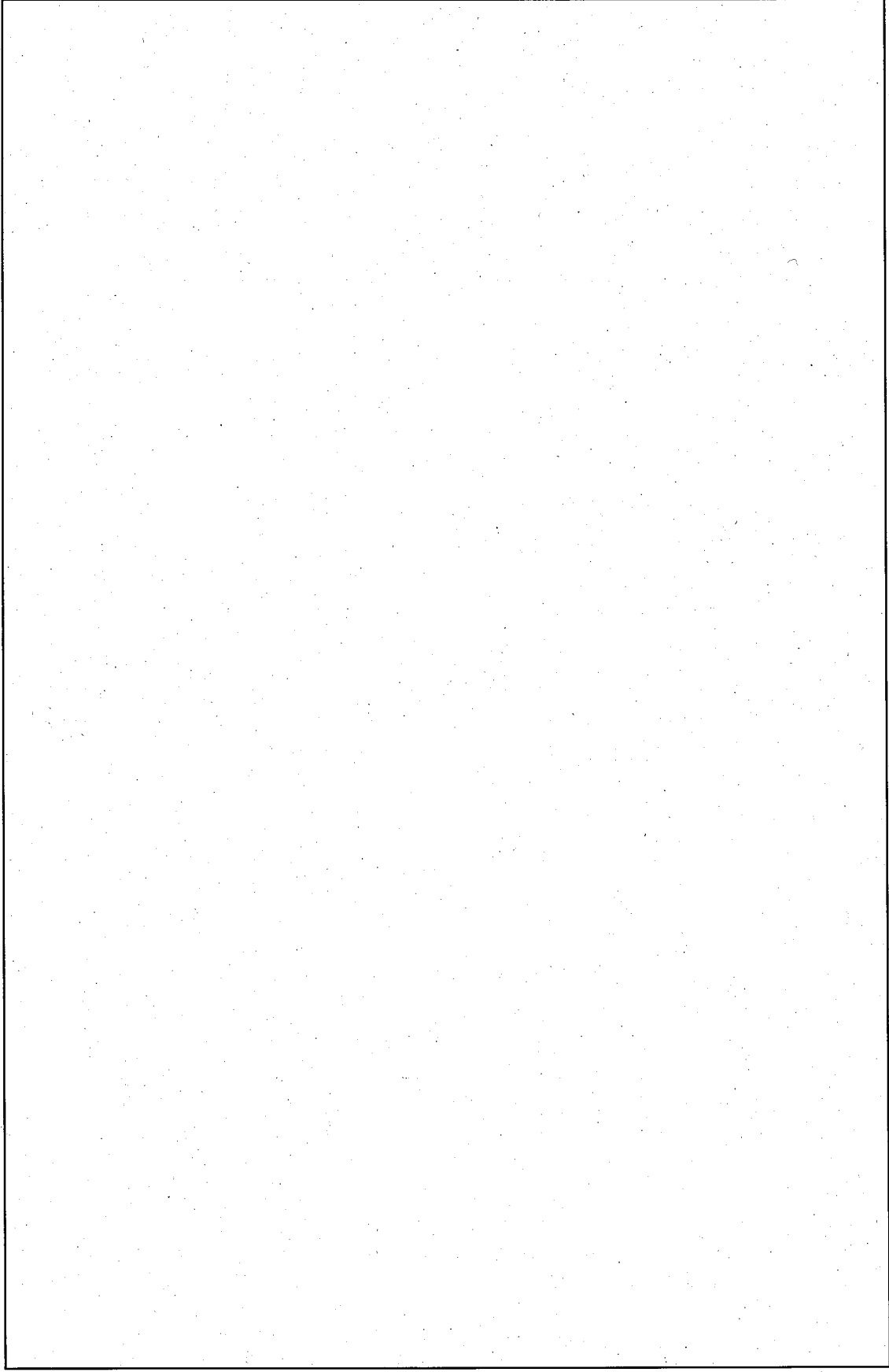
傍線部②:p.159, L.14「この問題が」...「だからです。」

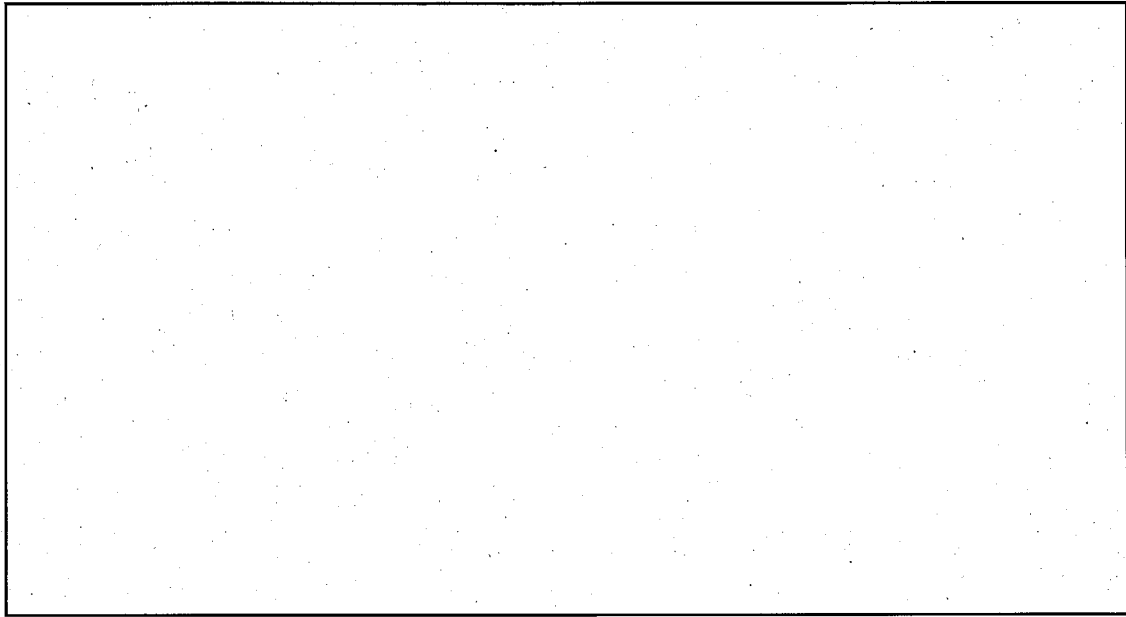
傍線部③:p.161, L.2「能力がある人を」...L.3「わかりません。」

なお, p.でページ数を表します。

L.でページ先頭からの行数を表し,

負数の場合はページ末尾からの行数を表します。





(隠岐さや香『文系と理系はなぜ分かれたのか』星海社 二〇一八 一五六～一六一頁より
一部改変して作成)

問 1 傍線部(一)～(五)の漢字に仮名をふりなさい。

問 2 傍線部①「教室もやはり社会の縮図なのでしょう」について、教室が社会の縮図であるとはどのような意味か、文章内容に即して具体的に説明しなさい。

問 3 傍線部②「この問題が見かけ以上に複雑なものだからです」について、この問題がどのように複雑なのか、説明しなさい。

問 4 傍線部③「「能力がある人を潰してしまうような社会的な差別はなかったか」どうかはわかりません」について、研究者になった人を調べたのはどうしてわからなかったのか、説明しなさい。

設問Ⅱ 次の文を読み問いに答えなさい。

ここに当該文献の

p.134, L.1 から p.139, L7 まで

の部分が掲載されています。

また、以下の部分に傍線が加えられています。

傍線部①:p.134, L.1「学習指導要領の」…L.3「としている。」

傍線部②:p.136, L.9「主体的・対話的で」…L.10「学び」

傍線部③:p.137, L.12「同調圧力」

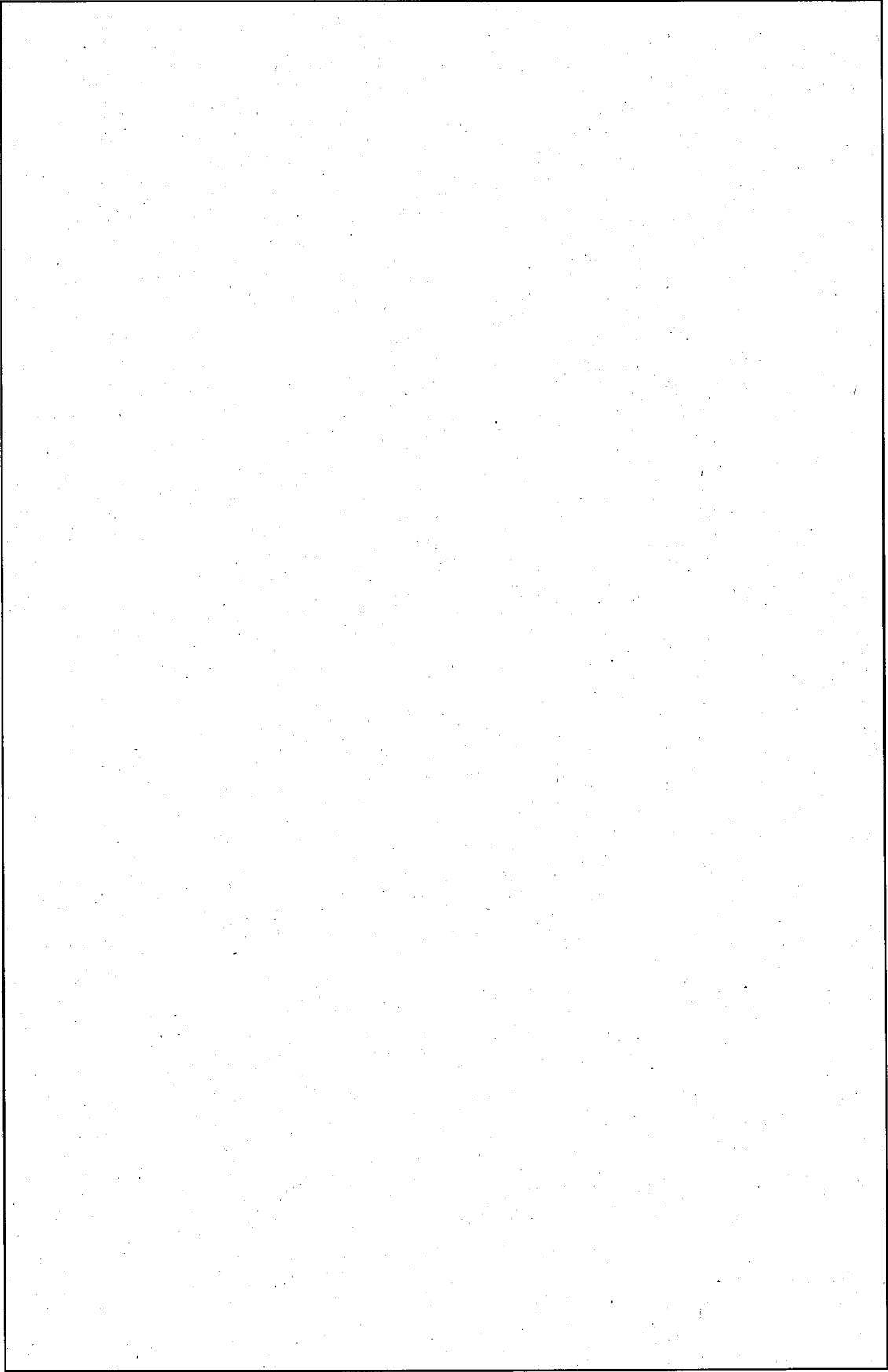
傍線部④:p.138, L.4「そう」

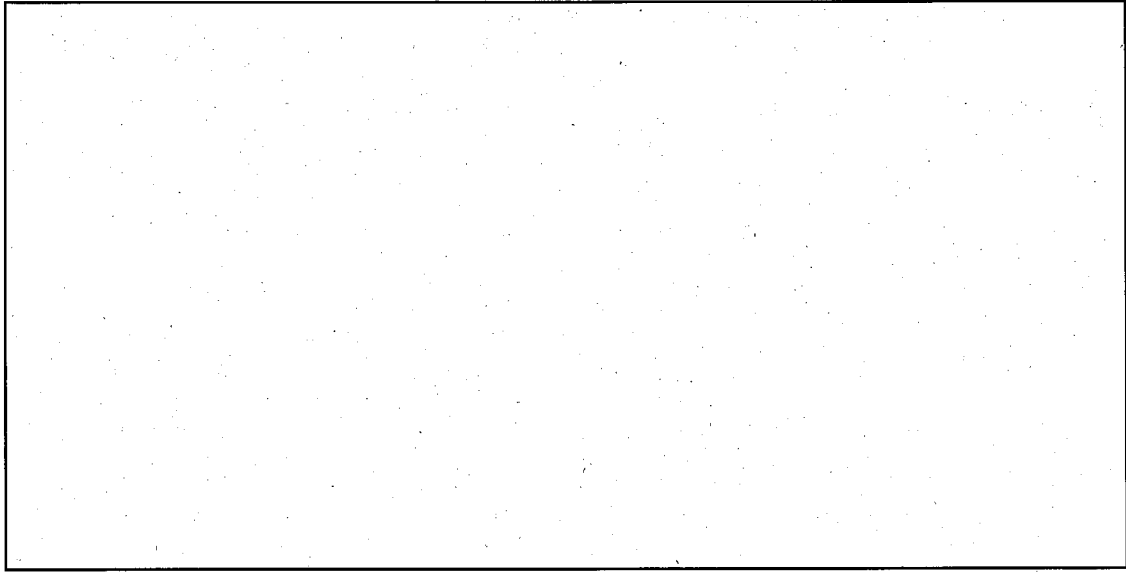
傍線部⑤:p.139, L.6「フィクションの力」

なお、p.でページ数を表します。

L.でページ先頭からの行数を表し、

負数の場合はページ末尾からの行数を表します。





(平田オリザ著『22世紀を見る君たちへーこれから生きるための「練習問題」ー』
講談社現代新書、二〇二〇年、一三四～一三九頁より作成、一部改変)

- 問 1 傍線部②「主体的・対話的で愛のある学び」の意味を本文に即して説明しなさい。
- 問 2 傍線部③「同調圧力」の意味を説明しなさい。
- 問 3 傍線部④「そう」の示す内容を説明しなさい。
- 問 4 傍線部①における対話的な学びと筆者が主張する対話的な学びとがどのように異なるのか説明しなさい。
- 問 5 傍線部⑤「フィクションの力」の意味を本文に即して説明しなさい。また、本文の例をふまえ「フィクションの力」を用いた対話的な学びの題材の具体例を新たに作成しなさい。

令和4年度（第1期試験）

東北大学大学院教育学研究科博士課程

（前期課程・一般選抜）

入学試験問題 外国語科目（英語）

注 意

- 1 試験時間は90分。
- 2 問題紙は 5枚(表紙を除く)、解答紙は 4枚。
- 3 設問Ⅰ、設問Ⅱの解答はそれぞれ別の用紙に記入すること。
- 4 辞書の使用は、不可とする。

【設問Ⅰ】学校改革におけるリーダーシップについて書かれた次の英文を読み、下線部①～④を日本語に訳しなさい。

ここに下記文献の抜粋が入ります。

Craig, I. (2017), Toxic leadership, Edited by Earley, P. and Greany, T., *School/Leadership and Education System Reform*. Bloomsbury Academic, London and New York, pp. 182-184.

(p. 180 の小見出し Neoliberalism and NPM から p. 184 の小見出し The effects of neoliberalism and NPM on leadership の前まで)

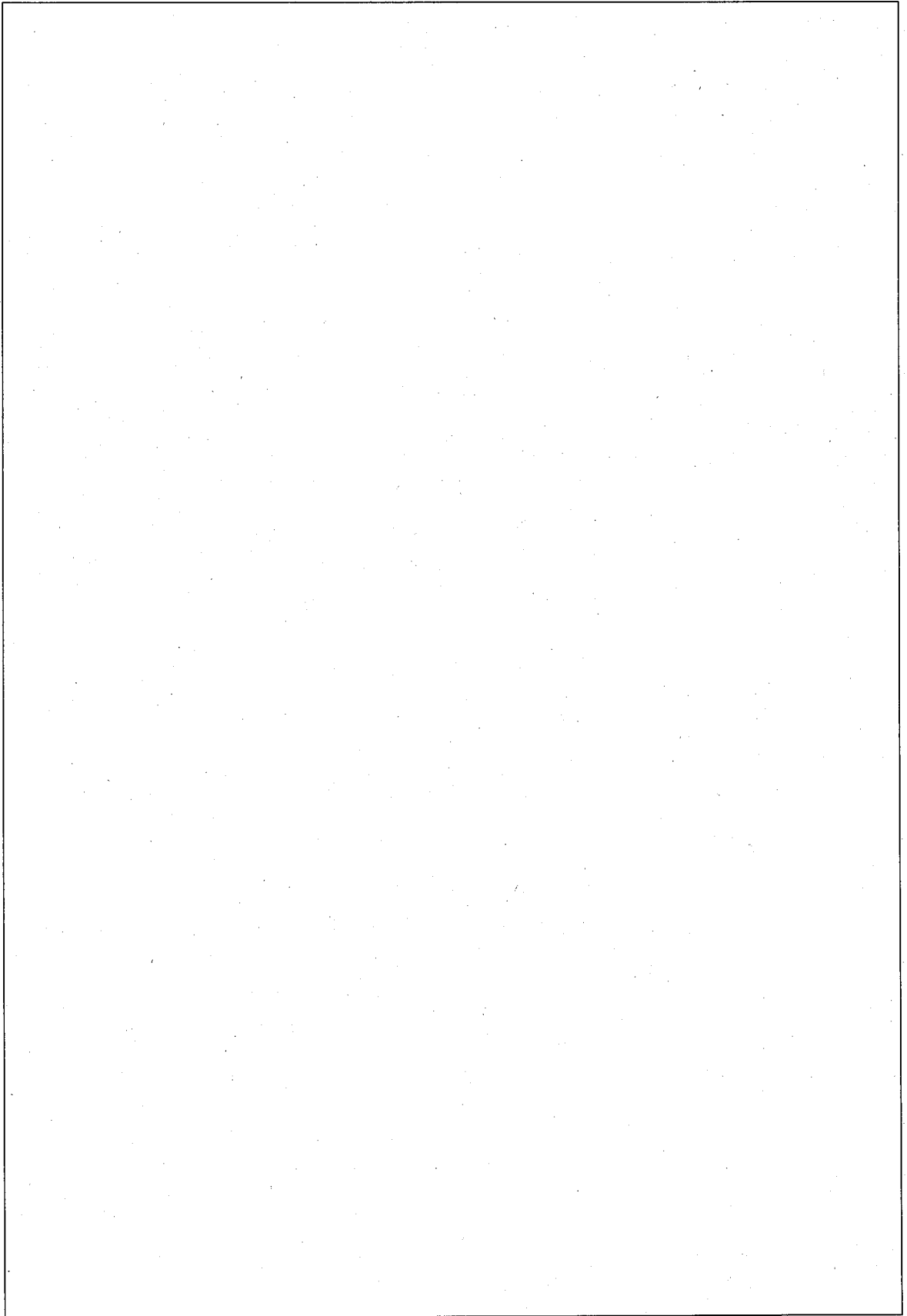
また、次の部分に下線を付してあります。

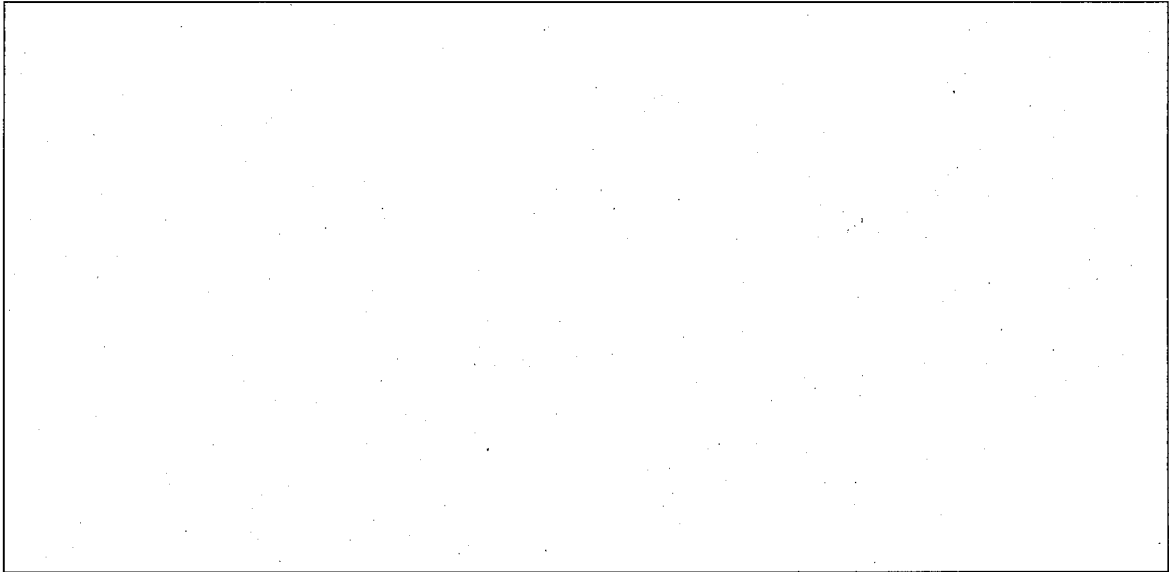
下線部① p. 182 の小見出し Neoliberalism and NPM に続く段落の 2 行目 “This movement…” から p. 182 の最後の行 “…in the private sector.” まで。

下線部② p. 183 の小見出し What is toxic leadership? に続く段落の冒頭 “Toxic leadership is…” から同段落 4 行目の “…for short-term gains.” まで。

下線部③ p. 184 の上から 6 行目 “A ‘toxic’ culture is…” から 9 行目 “…and ethos over time.” まで。

下線部④ p. 184 の上から 27 行目 “Toxic leadership is…” から 30 行目 “…will adopt this style.” まで。





注)

NPM: New Public Management の略。解答するにあたって訳出する際には NPM のままでよい。

(Craig, I. (2017), Toxic leadership, Edited by Earley, P. and Greany, T., *School Leadership and Education System Reform*. Bloomsbury Academic, London and New York, pp.182-184. より作成)

【設問 II】 次の英文を読み、下線部①～④を日本語に訳しなさい。ただし、人名については原文表記のままでよい。

ここに下記文献の抜粋が入ります。

Salmivalli, G., Peets, K., and Hodges, E. V. E. (2011). Bullying. In Smith, P. K., and Hart, C. H. (Eds.), *The Wiley-Blackwell Handbook of Childhood Social Development*. New York: Wiley, pp.510-519.

(p. 510 の小見出し What is bullying?に続く段落のはじめから終わりまで、および p. 518 の 2 行目 “A glance at...” から p. 519 の 10 行目 “...of their group mates.” まで)

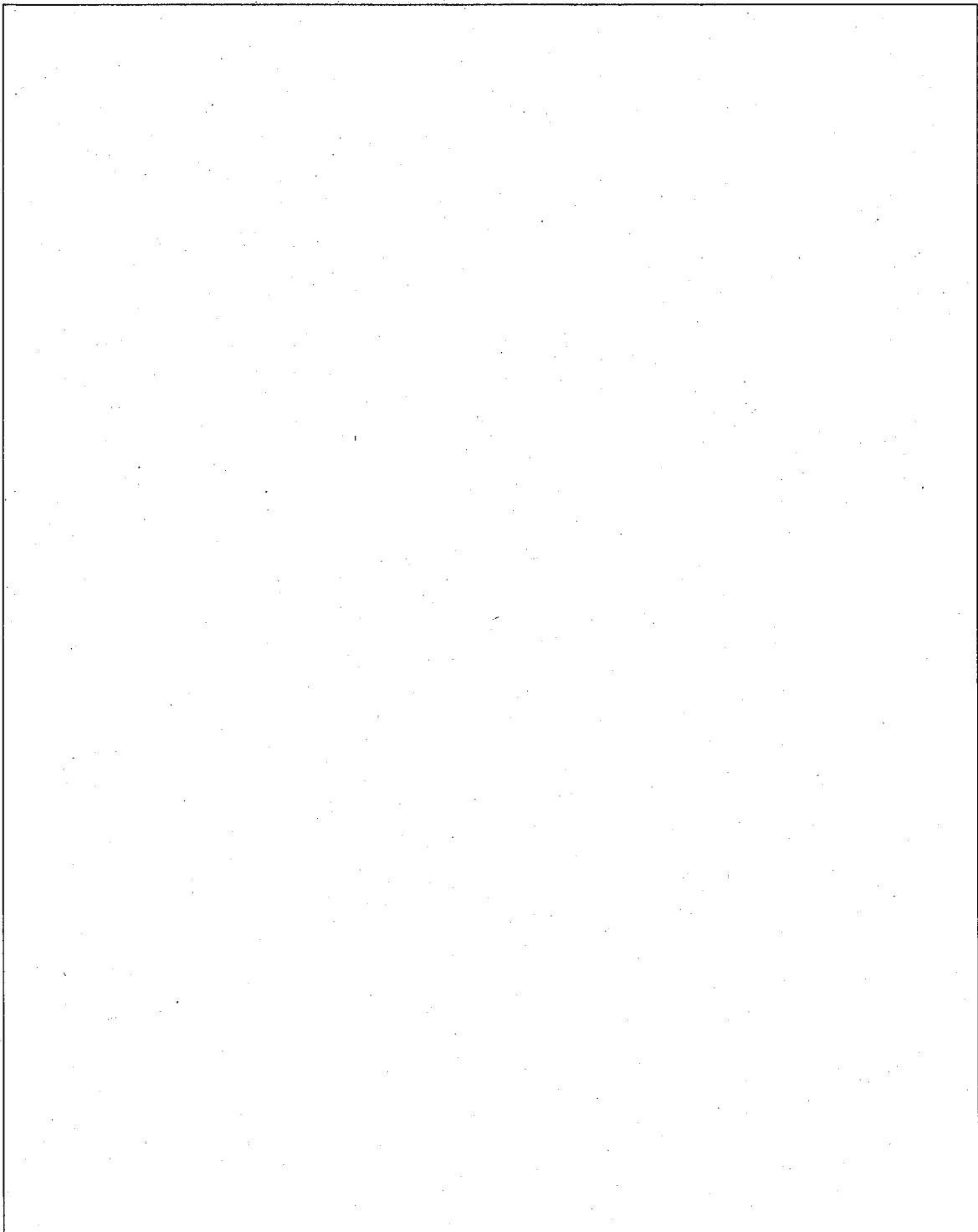
また、次の部分に下線を付してあります。

下線部① p. 510 の小見出し What is bullying?に続く段落の 5 行目 “Although some researchers have...” から同段落 8 行目 “...against the perpetrator).” まで。

下線部② p. 518 の上から 15 行目 “In their study...” から 19 行目の “...in their bullying behavior.” まで。

下線部③ p. 518 の上から 36 行目 “Even if bullies are...” から 39-40 行目 “...& Hymel, 2006).” まで。

下線部④ p. 519 の上から 1 行目 “Although aggression in...” から 5 行目 “...in bullying incidents.” まで。



(Salmivalli, C., Peets, K., and Hodges, E. V. E. (2011). Bullying. In Smith, P. K., and Hart, C. H. (Eds.), *The Wiley-Blackwell Handbook of Childhood Social Development*. New York: Wiley, pp.510-519. より作成)

令和 4 年度（第 1 期試験）

東北大学大学院教育学研究科博士課程

（前期課程・一般選抜）

生涯教育科学コース

入学試験問題（専門科目）

注 意

- 1 試験時間は 120 分。
- 2 問題紙は 1 枚（表紙を除く）、解答紙は 2 枚。
- 3 志望する専門領域が人間形成論/人間形成史であるものは、設問Ⅰと設問Ⅱに解答すること。その際の解答は、2 枚の解答紙を自由に使用して、記入してよい。
志望する専門領域が社会教育学/スポーツ文化論であるものは、設問Ⅲと設問Ⅳに解答すること。その際の解答は、2 枚の解答紙に問題番号を明記して、それぞれ別の解答紙に記入すること。

設問Ⅰ 「人間は教育によってはじめて人間になる」と言われるが（カント）、人間の誕生から死に至るまでの人間形成における教育の理念と目的とについて、受験者の研究関心にも触れながら、論じなさい。

設問Ⅱ 次の①～⑦の語句や概念のなかから3つを選択して、それぞれを説明しなさい。

- ① 往来物
- ② 咸宜園
- ③ 教育勅語
- ④ トランスナショナル市民社会 (transnational civil society)
- ⑤ ニューノーマル
- ⑥ 災害文化
- ⑦ 「である」(is) / 「べきである」(ought)

* * * * *

設問Ⅲ 国際的な視点から捉えた際の、日本の社会教育行政の特徴と課題を論じなさい。

設問Ⅳ コロナ禍という事態は、人間形成にいかなる影響を与えられ考えるか。そのうえで、社会教育・生涯学習をめぐる研究には、いかなる踏み出しが求められていると考えられるのか。論じなさい。

令和4年度（第1期試験）

東北大学大学院教育学研究科博士課程

（前期課程・一般選抜）

教育政策科学コース

入学試験問題（専門科目）

注 意

- 1 試験時間は120分。
- 2 問題紙は____3枚（表紙を除く）、解答紙は____3枚。
- 3 設問Ⅰ（共通問題）は全員解答すること。また、設問Ⅱ（選択問題）については、問題紙中に志望する専門分野ごとの問題選択の方法が記してあるので、それに応じて問題を選択の上、解答すること。
- 4 解答は、問題番号を明記の上、それぞれ別の用紙に記入すること。

設問Ⅰ：共通問題（全員解答すること）

下の資料は、文部科学省による平成30年度子供の学習費調査の結果の一部である。表中の「補助学習費」とは家庭内学習費（家庭のなかでの学習に使用する物品・図書）、家庭教師費、学習塾費などを指している。

図1 公立・私立小学校における学校外活動費に占める「補助学習費」「その他の学校外活動費」の割合

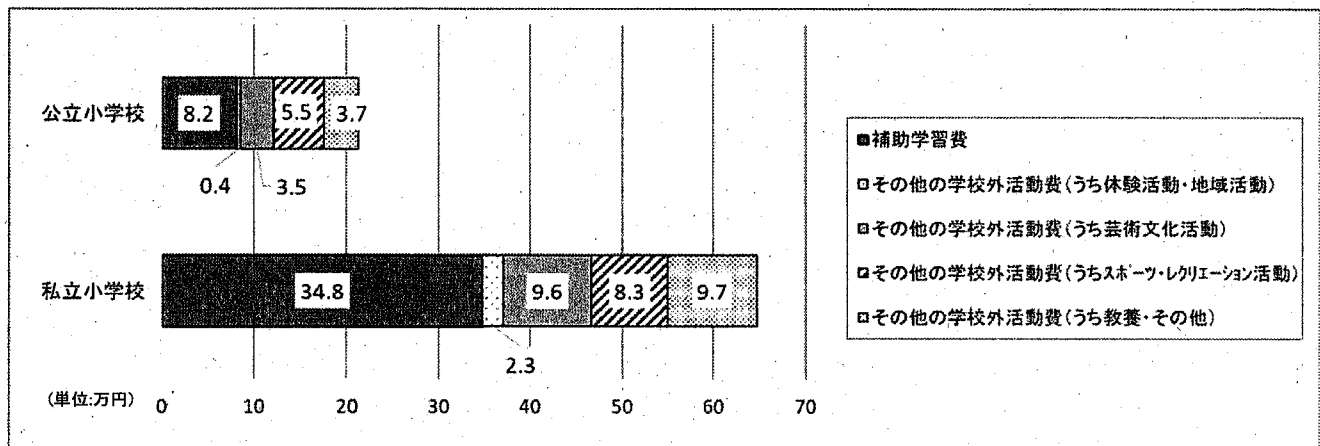
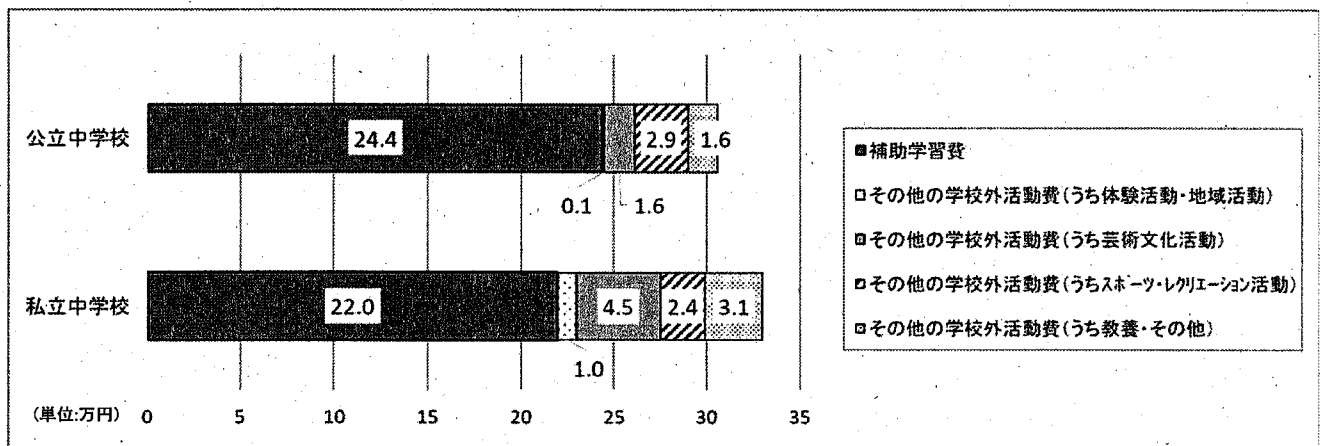


図2 公立・私立中学校における学校外活動費に占める「補助学習費」「その他の学校外活動費」の割合



(出典： https://www.mext.go.jp/content/20191212-mxt_chousa01-000003123_01.pdf より作成。)

この資料を参考にして、以下の問いに答えなさい（問1・問2への解答を解答紙1枚に収めること）。

問1 図1、図2から読み取れることを指摘せよ。

問2 図1、図2から読み取れたことを踏まえ、教育機会の格差の縮小に寄与すると考えられる政策を実施主体ごとに分けて提案せよ。

設問Ⅱ：選択問題（志望する専門領域の問題を選択して解答すること。）

【教育行政学領域】

次の各問に答えなさい。なお、問1・問2で解答紙を1枚、問3で解答紙を1枚使用すること。

問1 以下の表1と表2は文部科学省「令和元年度教育行政調査」の結果のうち、市町村と都道府県の在職期間別教育長数の推移を示したものである。

①表から読み取れることを述べなさい。

②表から読み取れることの背景について、特に制度、政策、政治の観点から説明しなさい。

表1 在職期間別教育長数の推移（市町村教育委員会）

区 分	23年度	25年度	27年度	29年度	(構成比)	元年度	(構成比)	(増減)
	人	人	人	人	%	人	%	
総 数	1,720	1,720	1,716	1,724	(100.0)	1,723	(100.0)	△1
1年未満	234	351	353	563	(32.7)	352	(20.4)	△211
1年以上2年未満	308	250	239	450	(26.1)	417	(24.2)	△33
2年以上4年未満	541	476	503	503	(29.2)	771	(44.7)	268
4年以上6年未満	291	312	252	54	(3.1)	183	(10.6)	129
6年以上8年未満	215	201	210	92	(5.3)	—	(—)	△92
8年以上	131	130	159	62	(3.6)	—	(—)	△62
平均在職期間	3.6年	3.5年	3.5年	2.1年		2.1年		—

（注）一部事務組合及び広域連合教育委員会の教育長であって、構成市町村の教育長によって兼ねられているものを除く。

表2 在職期間別教育長数の推移（都道府県教育委員会）

区 分	23年度	25年度	27年度	29年度	(構成比)	元年度	(構成比)
	人	人	人	人	%	人	%
総 数	47	47	46	46	(100.0)	47	(100.0)
1年未満	12	11	10	4	(8.7)	14	(29.8)
1年以上2年未満	9	15	12	26	(56.5)	15	(31.9)
2年以上4年未満	21	16	21	16	(34.8)	14	(29.8)
4年以上6年未満	3	4	3	—	(—)	4	(8.5)
6年以上	2	1	—	—	(—)	—	(—)
平均在職期間	2.1年	1.9年	1.8年	1.5年		1.7年	

（出典：https://www.mext.go.jp/content/20201120-mxt_chousa01-100012455_b.pdf）

問2 主幹教諭は2008年度から制度化された、いわゆる「新しい職」のひとつである。この主幹教諭の制度化の目的と、普及に当たっての予測される課題について述べなさい。

問3 教育行政学に関する次の語句のなかから3つを選択し、それぞれ200字程度で説明しなさい。

- ① 義務教育の段階における普通教育に相当する教育の機会の確保等に関する法律
- ② 公立の義務教育諸学校等の教育職員の給与等に関する特別措置法
- ③ 総合行政と個別行政
- ④ EBPM
- ⑤ リサーチクエスション

【比較教育学領域】

先進国による途上国への教育開発援助について書かれた次の文を読み、下の問いに答えなさい。なお、問1で解答紙を1枚、問2で解答紙を1枚使用すること。

ここに、以下の部分が入ります。
橋本憲幸『教育と他者—非対称性の倫理に向けて』春風社、2018年、124頁、
4行目「途上国の教育問題が」から
8行目「キャパシティ・ビルディングである。」まで。

問1 下線部について、ここでの「中立的」はどのような意味内容で用いられていると考えられるか、詳しく説明しなさい。

問2 先進国による途上国への教育開発援助が問題文に書かれているようなアプローチによって実施される場合、「中立的」であることに関してどのような課題が残されるか、あなたの考えを論じなさい。

令和4年度（第1期試験）

東北大学大学院教育学研究科博士課程

（前期課程・一般選抜）

グローバル共生教育論コース

入学試験問題（専門科目）

注 意

- 1 試験時間は120分。
- 2 問題紙は 1 枚（表紙を除く）、解答紙は 2 枚。
- 3 設問Ⅰ（共通問題）は全員解答すること。また、設問Ⅱ（選択問題）については、問1～問3から1つ選択の上、解答すること。
- 4 解答は、設問番号（設問Ⅱについては選択した問番号）を明記の上、それぞれ別の用紙に記入すること。

設問Ⅰ レジリエンスを高める教育とは何か。フォーマル教育、ノンフォーマル教育のそれぞれの観点から具体例を挙げながら説明しなさい。

設問Ⅱ 以下の問1～問3から1つ選択し解答しなさい。

問1：急激に変化する時代を背景とした日本の学校教育における子どもの多様性について、具体的な事例を用いて説明しなさい。また、この多様性を包摂できる学校教育を実現するために必要な対応策を述べなさい。

問2：グローバル化する社会における「学習社会」の特徴と課題について論じなさい。

問3：近年、日本における在留外国人の増加に伴い、日本人および在留外国人の一人一人が、社会の対等な構成員として、相互に国籍および社会的文化的背景を認め合い、人格と個性を尊重しつつ支え合いながら共生するという多文化共生社会の形成および推進がますます注目されている。そのなかで、地域における多文化共生を推進する教育の役割と課題について、具体的な事例を用いて論じなさい。

令和4年度（第1期試験）

東北大学大学院教育学研究科博士課程

（前期2年の課程・一般選抜）

教育情報アセスメントコース

入学試験問題（専門科目）

注 意

- 1 試験時間は120分。
- 2 問題紙は3枚（表紙を除く）、解答紙は3枚、草案紙は1枚。草案紙は自由に使ってよい。
- 3 設問Ⅰと設問Ⅱの両方に解答すること。
- 4 解答は、設問Ⅰについては1枚目の解答紙に、設問Ⅱについては2～3枚目の解答紙に、問の番号を明記した上で記入すること。
- 5 試験終了後、問題紙と草案紙は持ち帰ること。

設問 I つぎの文章を読み、問 1～4 に答えなさい。

鈴木貴之『脳科学と自由意志』科学哲学 Vol.42, pp.13-28, 2009. から
p.14, 11行目「脳科学は…」から p.16, 23行目「よいのではないだろうか」までが
抜粋されています。

下線部 (1) は, p.14, 16～17行目「人間行動 ... かもしれない」,

下線部 (2) は, p.15, 12～13行目「われわれの ... 思われる」,

下線部 (3) は, p.16, 15～16行目「リベットの ... 思われる」となっています。

(鈴木貴之『脳科学と自由意志』科学哲学 Vol. 42, pp. 13-28, 2009. より一部改変)

(注) 決定論：あらゆる出来事は、それに先行する出来事（の群）から物理的な因果関係によって生じたものであるという考え。

問 1 下線部(1)にあるドーキンスの考えを、本文における自由意志に関する議論にもとづいて、150 字程度で説明しなさい。

問 2 下線部(2)で「われわれの意思決定において、意識的な心的状態は役割を果たしていないように思われる」という脳科学研究からの知見が紹介されている。この知見の根拠を、リベットの実験に依拠するかたちで、150 字程度で説明しなさい。

問 3 下線部(3)で著者は、「リベットの实验は、ただちに自由意志を否定するものではないように思われる」と述べている。著者とリベットの考えの違いを 150 字程度で説明しなさい。

問 4 あなたは自由意志の存在をどのように考えるか。本文での議論を参考に、「脳」「意識」「決定論」「錯覚」という言葉を使って 250 字程度で述べなさい。

設問Ⅱ つぎにあげる新聞記事を読み、問 1, 2 に答えなさい。

河北新報, 2021年3月25日の記事

「PC使用方式見送り
会場準備難しく
コストも膨大に」
がここに入ります。

下線部 (1) は 2 段落目「動画活用 ... 期待できる」,
下線部 (2) は 2 段落目「40万人 ... 必要がある」となっています。

(河北新報, 2021 年 3 月 25 日 (木) より作成)

問 1 下線部(1)について、従来の紙を用いたテストと比べて、どのような教育測定上の効果が見込めるかについて、デメリットも考慮しつつ、意見を述べなさい。

問 2 下線部(2)に挙げられた種々の問題点を克服してでも、大学入試に CBT を導入すべきかどうかについて、大学入試に関する現状を踏まえた上で考えを述べなさい。

令和4年度（第1期試験）

東北大学大学院教育学研究科博士課程

（前期課程・一般選抜）

教育心理学コース

入学試験問題（専門科目）

注 意

1. 試験時間は120分。
2. 問題紙は2枚（表紙を除く）、解答紙は4枚。
3. 【共通】【A-1】【A-2】・・・の解答は、問題番号を明記の上、それぞれ別の解答紙に記入すること。
4. 志願する領域によって解答する問題が異なるので、注意すること。

発達心理学領域を専攻しようとするものは【共通】【B-1】【B-2】【B-3】の各問題に解答すること。

発達障害学領域を専攻しようとするものは【共通】【C-1】【C-2】【C-3】の各問題に解答すること。

<発達心理学領域>

【共通】 測定した個人の知能がある一定の時間の中で変動している場合，どのような理由が考えられるか，「検査」「発達」の各語を用いて論述しなさい。

【B－1】 J.Piaget の具体的操作期の特徴について説明しなさい。その際，次の用語を使用すること。「保存」「形式的操作期」

【B－2】 親子間の愛着(Attachment)のタイプについて説明した上で，それらの規定因について知るところを述べなさい。

【B－3】 発達研究の方法として質問紙法の特徴をあげ，長所を活かし短所を補うためにどのようなことに注意をしなければならないかを考察しなさい。

<発達障害学領域>

【共通】 測定した個人の知能がある一定の時間の中で変動している場合，どのような理由が考えられるか，「検査」「発達」の各語を用いて論述しなさい。

【C-1】 (WHO による) ICIDH および ICF について，それぞれの障害概念を述べるとともに，両者の間に見られる捉え方の違いについて説明しなさい。

【C-2】 通級による指導における指導の例（架空例で良い）を 1 つ上げ，小学校段階および高等学校段階において，その指導を行う際に，それぞれの段階で留意すべき事項について述べなさい。

【C-3】 発達障害を 1 つ取り上げ，その障害特性と背景要因を医学、教育学および社会学、心理学の立場から因果関係が明確となるように説明しなさい。

令和 4 年度 （第 1 期試験）

東北大学大学院教育学研究科博士課程

（前期課程・一般選抜および社会人特別選抜および
外国人留学生特別選抜）

臨床心理学コース

入学試験問題（専門科目）

注 意

1. 試験時間は120分。
2. 問題紙は1枚（表紙を除く）、解答紙は5枚。
3. 解答は所定の用紙に記すこと（設問Ⅰ～設問Ⅲの解答は各1枚の解答紙を用いて、設問Ⅳの解答は2枚の解答紙を用いて、(1)～(4)を1枚目、(5)～(8)を2枚目に記入すること）。

…………臨床心理学コース…………

【設問Ⅰ】 緩和ケアにおける心理支援について述べなさい。

(20 点)

【設問Ⅱ】 心理学の研究方法における観察法について述べなさい。

(20 点)

【設問Ⅲ】 臨床心理学的支援における「多重関係」とは何か。また、「多重関係」が望ましくないとされるのはなぜか。具体例をあげながら説明しなさい。

(20 点)

【設問Ⅳ】 以下の用語をそれぞれ5行程度で説明しなさい。

(各 5 点)

(1) 睡眠衛生指導

(2) 世代間伝達

(3) アンダーマイニング効果

(4) 社会的勢力

(5) サイコロジカル・ファースト・エイド

(6) ナラティブ・セラピー

(7) 自覚的障害単位 (subjective units of distress)

(8) 効果量

(以下余白)